

# 2024年3月期第3四半期 決算短信補足資料

(2023年4月-2023年12月)

2024年2月5日

マルハニチロ株式会社(TSE:1333)

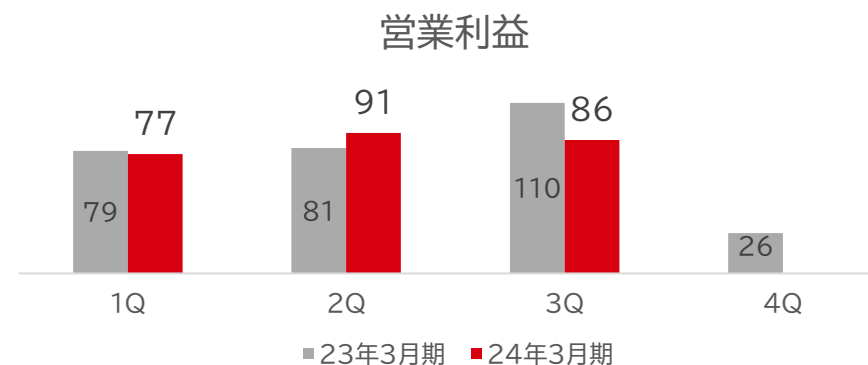
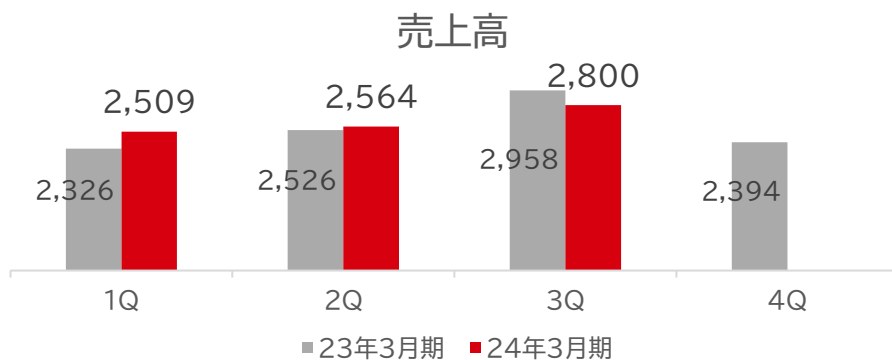


# 第3四半期 決算ハイライト

売上高は上期に引き続き、伸長。営業利益は、加工食品が家庭用・業務用ともに好調に推移するも、水産での減益分をカバーできず、全体では、減益。

(単位:億円)

	23年12月期	22年12月期	前年対比		年間計画	
			増減	増減率	計画値	計画比
売上高	7,873	7,810	63	+0.8%	9,800	80.3%
営業利益	254	269	△16	△5.9%	270	93.9%
経常利益	302	308	△6	△2.0%	270	112.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	224	185	39	+21.2%	185	121.3%



## 第3四半期 決算のポイント

### 水産資源セグメントは、前年対比で減益。

- 漁業ユニットは、漁船の稼働低下による漁獲数量減少、キハダマグロなどの販売価格下落、および燃料費の高騰により減益。  
(漁業ユニット営業利益 △5億円、前年対比 △14億円)
- 海外ユニットのスケソウダラ事業(北米)は、相場が軟調に推移したほか、販売遅れが発生。ペットフード事業(タイ)は、販売は回復傾向にあるものの、上期の数量減が響き、減益。  
(海外ユニット営業利益 70億円、前年対比 △38億円)

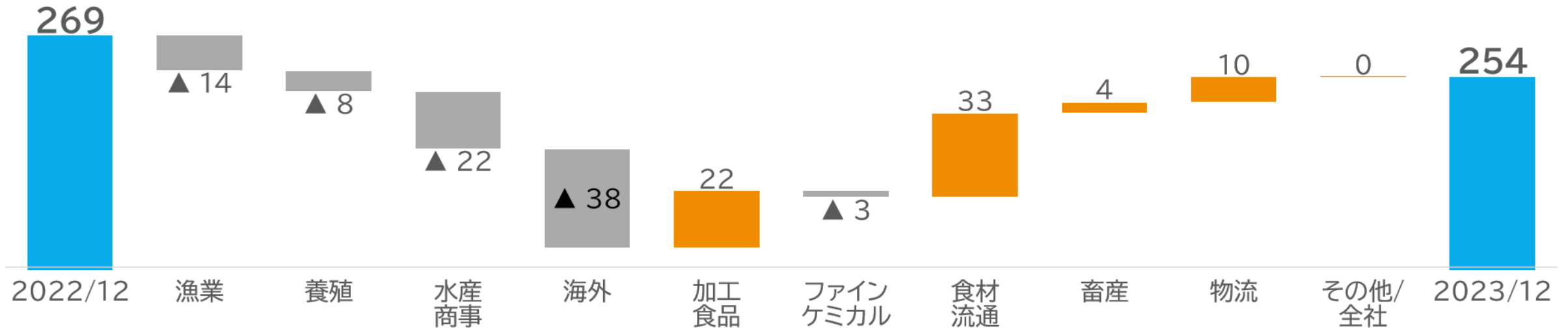
### 加工食品セグメント・食材流通セグメントは、大幅な増益。

- 価格改定効果、商品の規格変更・商品数削減などによる業務効率化、生産性の向上が奏功。  
(2セグメント合計の営業利益 116億円、前年対比 +56億円)

# 営業利益の増減要因

■ 増加 ■ 減少 ■ 合計

(単位:億円)



漁船の稼働低下による漁獲数量の減少、キハダマグロなどの販売価格下落、燃料費の高騰

飼料代など的高騰によるコスト上昇

冷凍マグロ、鮭鱒などの魚種の販売価格が低迷

スケソウダラ相場の軟調と販売遅れ(北米)、ペットフード事業の北米向け販売低調(タイ)

価格改定効果、および生産性の向上が寄与

販売数量の減少、および原料高騰によるコスト上昇

増収効果に加え、業務効率、および工場での生産性の向上

畜肉相場の上昇に伴う販売価格の上昇、および輸入食肉の販売堅調

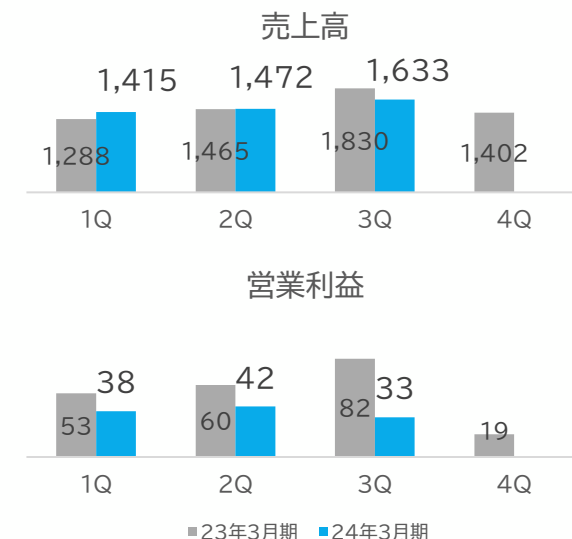
保管需要を着実に取り込んだほか、電気代などのコスト上昇も価格に反映

# 水産資源セグメント①

漁業での漁獲数量減少と燃料費の高騰、スケソウダラ相場の軟調、販売遅れなどがあり、全体で42%減益。

(単位: 億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年12月期	22年12月期	前年対比		23年12月期	22年12月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
漁業	277	296	△ 19	△6.4%	△ 5	8	△ 14	—
養殖	125	124	1	+0.8%	8	16	△ 8	△52.3%
水産商事	2,355	2,419	△ 64	△2.7%	41	63	△ 22	△34.9%
海外	1,763	1,744	19	+1.1%	70	108	△ 38	△35.4%
セグメント計	4,520	4,583	△ 63	△1.4%	113	195	△ 82	△42.1%



- **漁業**

**【3Q事業概況】**漁船の稼働低下による漁獲数量の減少、キハダマグロなどの販売単価下落、および燃料費の高騰により減収減益。

**【通期見通し】**厳しい事業環境は継続。燃油コスト抑制や操業体制の見直し、自社加工度を高めるなど販売ルートが多様化により、収益性を向上させる。
- **養殖**

**【3Q事業概況】**マグロ・カンパチの販売価格が堅調に推移し売上高は前年並みの一方、飼料代などの高騰によるコスト上昇により、減益。

**【通期見通し】**燃料・飼料の高騰によるコスト上昇に加え、下期はブリの相場下落が本格化。配合飼料の見直しを含むコスト最適化や飼育技術の向上、安定取引先との取組み強化により影響緩和に努める。

## 水産資源セグメント②

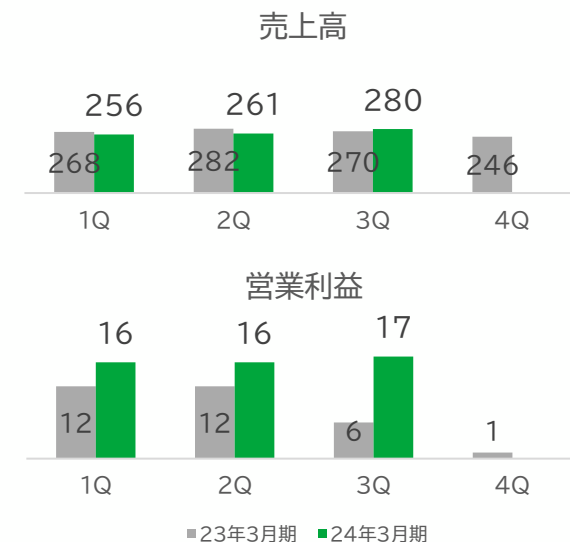
- **水産商事** **【3Q事業概況】**冷凍マグロや鮭鱒などの魚種の販売価格が引き続き低迷した結果、減収減益。  
**【通期見通し】**タコ、エビ、魚介類加工品などは外食ルートでの需要の高まりを受け、販売価格は高値で推移。一方、冷凍マグロは軟調な相場が続き、厳しい環境を見込むため、在庫ポジションの調整を行って利益確保に努めるとともに、計画的な買付を行う。
- **海外** **【3Q事業概況】**
  - <北米> スケソウダラ漁獲枠増もあり供給は増えたものの、相場が軟調に推移したほか、販売遅れと単価下落が発生し、減収減益。
  - <欧州> 前期に子会社化したイギリス水産加工販売会社およびオランダの食品卸会社が堅調で、増収増益。
  - <アジア> ペットフード事業が、主要販売先である北米での在庫調整を受けて販売が低調に推移し、減収減益。**【通期見通し】**
  - <北米> 生産性向上の一方、スケソウダラは相場が軟調で収益悪化。生産品の早期販売を徹底するほか、更なる生産効率の向上を図る。
  - <欧州> インフレの継続により、低価格帯へ消費がシフトし業務筋向けは販売低調。量販ルートを中心に拡販を強化し、収益確保に努める。
  - <アジア> 販売先での在庫調整による影響は、下期より回復傾向。商品開発による競争優位性を高めるほか、販路開拓で販売数量維持に努める。

# 加工食品セグメント

加工食品ユニットでの生産性向上および価格改定効果により、全体で65%増益。

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年12月期	22年12月期	前年対比		23年12月期	22年12月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
加工食品	743	763	△ 20	△2.6%	41	19	22	+114.9%
ファインケミカル	54	57	△ 3	△4.8%	8	11	△ 3	△23.8%
セグメント計	797	820	△ 23	△2.8%	49	30	19	+65.3%



- 加工食品

**【3Q事業概況】**消費者の節約志向が強まり販売数量が減少したほか、前期の広島工場の火災による逸失をカバーしきれず、減収。

一方、生産性の向上、および価格改定効果により増益。

**【通期見通し】**消費者の節約志向に伴い、販売数量は減少を見込むものの、価格改定効果と生産性向上により大幅な増益を見込む。

一方、原材料や物流費などのコスト上昇が続き、家庭用冷凍食品は価格改定を2月に実施。

- ファインケミカル

**【3Q事業概況】**機能性表示食品制度の運用変更による販売数量減、およびペルーのアンチヨビー禁漁による原料の高騰などにより、減収減益。

**【通期見通し】**インバウンド需要の未回復、機能性表示制度の運用見直しによる販売影響、および原料価格の上昇により、減収減益を見込む。

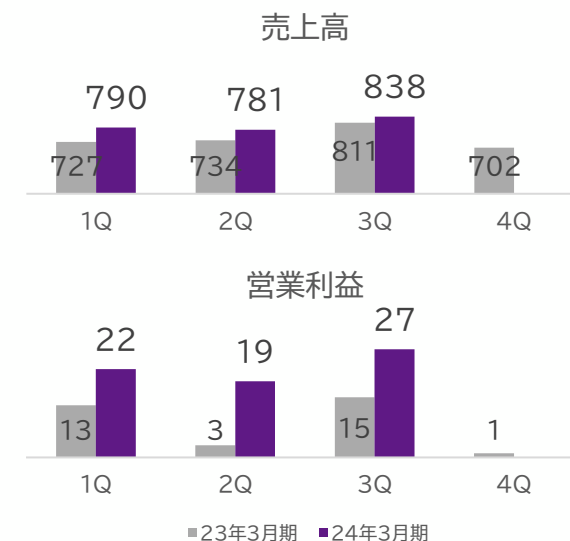
取扱い拡大に向けて取り組み中の医薬品原薬(EPA、ヘパリン)を着実に販売するほか、「予防食、未病食」分野への取組みを進める。

# 食材流通セグメント

増収効果に加え、業務効率および生産性の向上により、全体で121%増益。

(単位: 億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年12月期	22年12月期	前年対比		23年12月期	22年12月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
食材流通	1,690	1,612	78	+4.8%	55	23	33	+142.3%
畜産	720	659	60	+9.2%	12	7	4	+56.8%
セグメント計	2,409	2,271	138	+6.1%	67	30	37	+121.4%



- 食材流通

**【3Q事業概況】**グループ内連携を強化し、市場の変化に合わせた業態ニーズを把握して販路拡大に努め、特に外食ルートが伸長して増収。

また増収効果に合わせ、業務効率および生産性の向上により、増益。

**【通期見通し】**円安や地政学的リスクなどによる原材料・エネルギー価格に加え、物流費などの高騰リスクはあるものの、環境の変化に対応し、通期での大幅な増収増益をめざす。一方、継続して業務改善や生産性向上などに努めるものの、自助努力でカバーできないコスト上昇分は価格改定を実施。

- 畜産

**【3Q事業概況】**全般的な畜肉相場の上昇に伴う販売価格の上昇、および輸入食肉の販売が堅調に推移したことから、増収増益。

**【通期見通し】**調達コストの上昇から販売価格が高値推移し、低価格志向の市場ではより安価な畜種・商品へと需要がシフトする状況が継続。国内外の多様な調達網を活用して市場ニーズに対応するほか、グループ内連携を進めることで収益の最大化を図る。

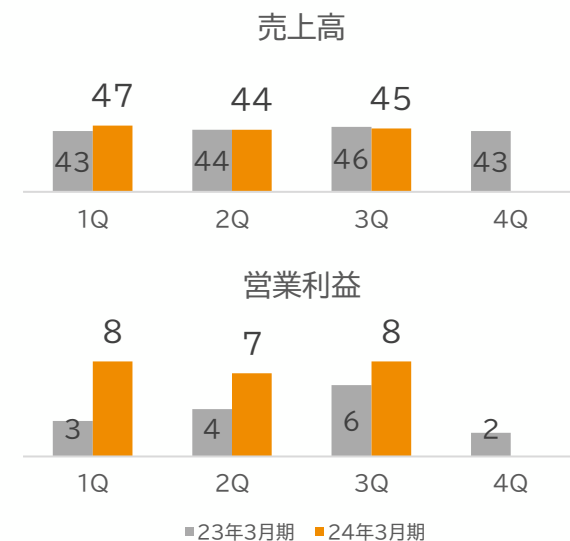


# 物流セグメント

保管需要を着実に取り込み、72%増益。

(単位: 億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年12月期	22年12月期	前年対比		23年12月期	22年12月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
物流	135	133	2	+1.4%	23	14	10	+72.4%



- 物流
  - 【3Q事業概況】保管需要を着実に取り込んだほか、電気料金などのコスト上昇を価格に反映したことにより、増収増益。
  - 【通期見通し】価格改定による増収効果、および電気・ガス価格の激変緩和対策の継続を含めた動力費の負担軽減もあり、増収増益を見込む。
  - 下期も継続して、保管スペースの確保を進め、スポット貨物を含めた積極的な集荷に努めて売上拡大を図る。

# 通期の見通し

- 加工食品・食材流通セグメントは、価格改定効果と生産性向上が寄与し、大幅な増益を見込む一方で、水産資源セグメントでは減益を見込む。
- 一部の水産物の軟調な相場展開や、為替相場の不安定な状況は継続すると予想するが、第3四半期までの業績を踏まえ、通期業績予想を修正。

(単位:億円)

	23年12月期	24年3月期 (期初計画)	24年3月期 (修正計画)	増減額	増減率
売上高	7,873	9,800	10,200	400	+4.1%
営業利益	254	270	270	—	—
経常利益	302	270	310	40	+14.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	224	185	220	35	+18.9%

(ご参考) 1株当たり当期純利益

366.69円

436.82円

# Appendix

# 2024年3月期 第3四半期 連結損益計算書

(単位:億円)

	23年12月期	22年12月期	増減	主な内容
売上高	7,873	7,810	63	
売上原価	6,823	6,742	82	
売上総利益	1,050	1,068	△ 18	
販売費・一般管理費	796	799	△ 2	
営業利益	254	269	△ 16	
営業外収益	78	59	19	為替差益(24)
営業外費用	30	20	9	
経常利益	302	308	△ 6	
特別利益	87	32	55	受取保険金(80)
特別損失	33	36	△ 3	損害賠償金(12)、損害賠償損失引当金繰入額(6)
税金等調整前四半期純利益	356	305	51	
法人税等	108	78	30	
非支配株主に帰属する四半期純利益	24	42	△ 18	
親会社株主に帰属する四半期純利益	224	185	39	

# 2024年3月期 第3四半期 連結貸借対照表

(単位:億円)

	23年12月末	23年3月末	増減	主な内容(前期末比)
流動資産	4,442	3,926	515	現預金(+12)、売上債権(+387)、棚卸資産(+96)
固定資産	2,543	2,446	97	有形固定資産(+9)、無形固定資産(+11)、投資有価証券(+63)
資産合計	6,985	6,372	613	
流動負債	2,982	2,654	328	仕入債務(+136)、短期借入金(+97)
固定負債	1,576	1,593	△16	社債(+130)、長期借入金(△145)
負債合計	4,558	4,247	311	
株主資本	1,804	1,636	168	利益剰余金(+174)
その他包括累計	254	147	107	
非支配株主持分	368	342	26	
純資産合計	2,427	2,125	301	
負債純資産合計	6,985	6,372	613	
有利子負債	3,094	3,011	82	(社債+130を含む)
自己資本比率	29.5%	28.0%	1.5	

## 【資産の増加+613億円】

- ・魚介類・畜産物の販売好調による売上債権の増加
- ・季節要因(北米スケソウダラ他)による棚卸資産の増加
- ※在外子会社資産の為替換算影響+229億円含む(円安)

## 【負債の増加+311億円】

- ・運転資本の増に伴う有利子負債の増加
- ・仕入債務や営業未払費用の増加

<ご参考:22年12月末>

有利子負債 3,413億円  
自己資本比率 26.1%

# 2024年3月期 第3四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	23年12月期	22年12月期	増減	主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	175	△ 446	622	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金等調整前四半期純利益 (+356)</li> <li>・減価償却費(のれん含む) (+133)</li> <li>・売上債権の増減額&lt;増加:△&gt; (△357)</li> <li>・棚卸資産の増減額&lt;増加:△&gt; (△26)</li> <li>・仕入債務の増減額&lt;減少:△&gt; (+107)</li> <li>・その他流動負債の増減額&lt;減少:△&gt; (+39)</li> <li>・法人税等の支払額 (△71)</li> <li>・保険金の受取額 (+80)</li> </ul>
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 101	△ 221	120	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産の取得による支出 (△95)</li> <li>・無形固定資産の取得による支出 (△12)</li> <li>・利息及び配当金の受取額 (+15)</li> </ul>
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 83	688	△ 770	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期借入金の増減&lt;減少:△&gt; (+36)</li> <li>・長期借入金の増減&lt;減少:△&gt; (△136)</li> <li>・社債発行による収入 (+129)</li> <li>・配当金の支払額 (△50)</li> <li>・非支配株主への配当金の支払額 (△20)</li> <li>・利息の支払額 (△25)</li> </ul>
現金・現金同等物の 期末残高	343	285	58	—

# 2024年3月期 第3四半期 セグメント・ユニット別 実績

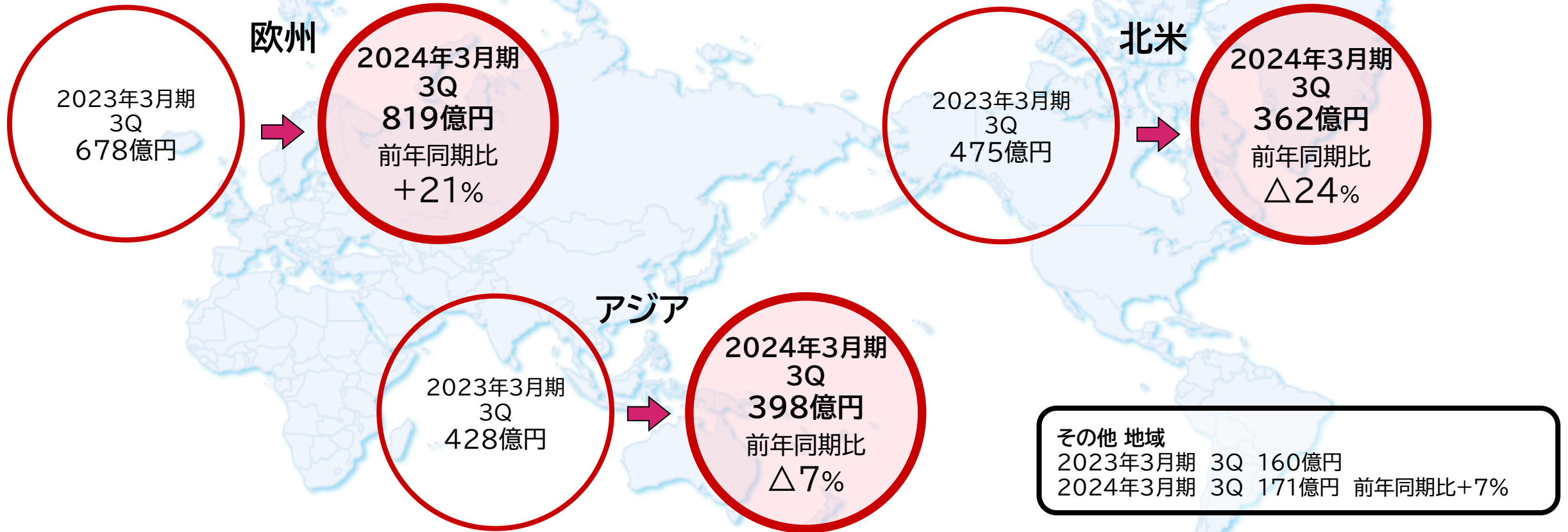
(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高				営業利益			
		23年12月期	22年12月期	増減	増減率	23年12月期	22年12月期	増減	増減率
水産資源	漁業	277	296	△ 19	△6.4%	△ 5	8	△ 14	—
	養殖	125	124	1	+0.8%	8	16	△ 8	△52.3%
	水産商事	2,355	2,419	△ 64	△2.7%	41	63	△ 22	△34.9%
	海外	1,763	1,744	19	+1.1%	70	108	△ 38	△35.4%
	セグメント計	4,520	4,583	△ 63	△1.4%	113	195	△ 82	△42.1%
加工食品	加工食品	743	763	△ 20	△2.6%	41	19	22	+114.9%
	ファインケミカル	54	57	△ 3	△4.8%	8	11	△ 3	△23.8%
	セグメント計	797	820	△ 23	△2.8%	49	30	19	+65.3%
食材流通	食材流通	1,690	1,612	78	+4.8%	55	23	33	+142.3%
	畜産	720	659	60	+9.2%	12	7	4	+56.8%
	セグメント計	2,409	2,271	138	+6.1%	67	30	37	+121.4%
物流	物流	135	133	2	+1.4%	23	14	10	+72.4%
	その他	12	3	9	+307.7%	8	2	6	+295.8%
	全社	—	—	—	—	△ 7	△ 1	△ 6	—
	合計	7,873	7,810	63	+0.8%	254	269	△ 16	△5.9%

# 2024年3月期 第3四半期の海外売上高

海外売上高	2023年3月期 3Q	2024年3月期 3Q	2025年3月期 (中計最終年度)
	1,741億円	1,750億円	2,150億円

海外売上高 比率	2023年3月期 3Q	2024年3月期 3Q	2025年3月期 (中計最終年度)
	22.3%	22.2%	22.4%





# お問い合わせ先

マルハニチロ株式会社 経営企画部 IRグループ  
[ir-info@maruha-nichiro.co.jp](mailto:ir-info@maruha-nichiro.co.jp)

**Thank you**



# MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。